

資料

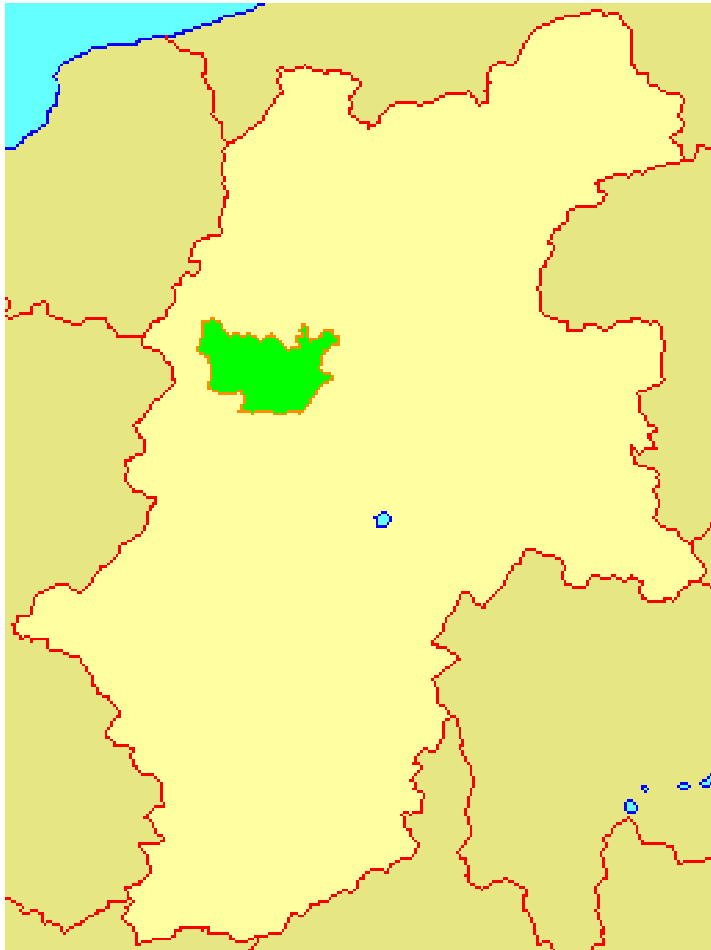
H30協議体研修会

安曇野市生活支援体制整備事業の取り組み

平成30年8月17日

安曇野市生活支援コーディネーター 丸山 知子

安曇野市の高齢化の状況



人口	97,944人
65歳以上人口	29,809人
高齢化率	30.4%

人口：安曇野市住民
基本台帳より
(H30.8.1現在)

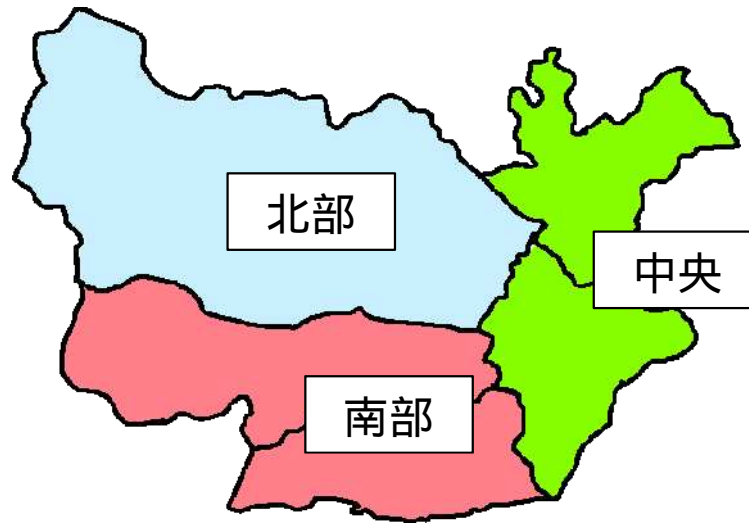
前期高齢者(65歳～74歳)	14,638人(49.1%)
後期高齢者(75歳～)	15,171人(50.9%)

地域別の高齢者の状況

地域包括支援センターの設置

旧町村単位 5 圏域に 3 つの地域包括支援センターが設置

穂高	
人口	34,093人
高齢者人口	10,556人
高齢化率	31.0%



明科	
人口	8,316人
高齢者人口	3,172人
高齢化率	38.1%

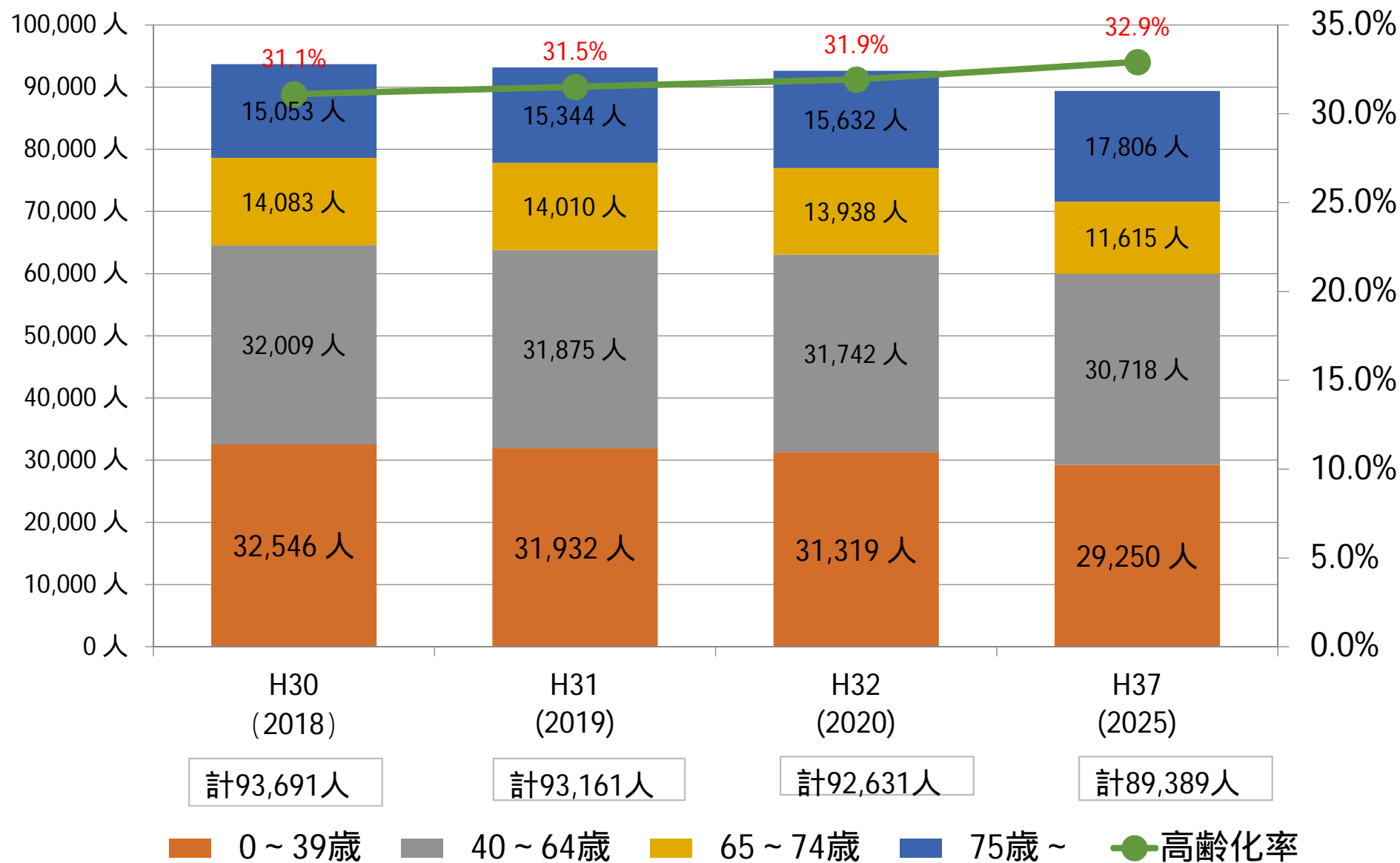
堀金	
人口	9,110人
高齢者人口	2,630人
高齢化率	28.9%

三郷	
人口	18,626人
高齢者人口	5,299人
高齢化率	28.4%

豊科	
人口	27,799人
高齢者人口	8,152人
高齢化率	29.3%

人口：安曇野市住民基本台帳より（H30.8.1現在）

これからの推計人口



第7期安曇野市介護保険事業計画より

安曇野市生活支援体制整備事業について

生活支援コーディネーターと協議体の設置等を通じて、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、地域で多様な主体によるサービス提供を推進する事業

生活支援コーディネーターの配置(平成28年4月～)

5地域に生活支援コーディネーターを配置
豊科地域:JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん、
穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域:社会福祉協議会

【主な活動】

地域に出向き、支え合い・助け合いの意識を広める
拠点介護予防教室後における支え手の相談支援
協議体の運営 など

協議体の設置(平成28年9月～)

5地域に協議体を設置
構成団体:支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、生活協同組合、商工会、包括など

【主な活動】

地域ニーズの把握、地域分析から必要なサービスの検討
関係団体との情報共有・ネットワークを構築する など

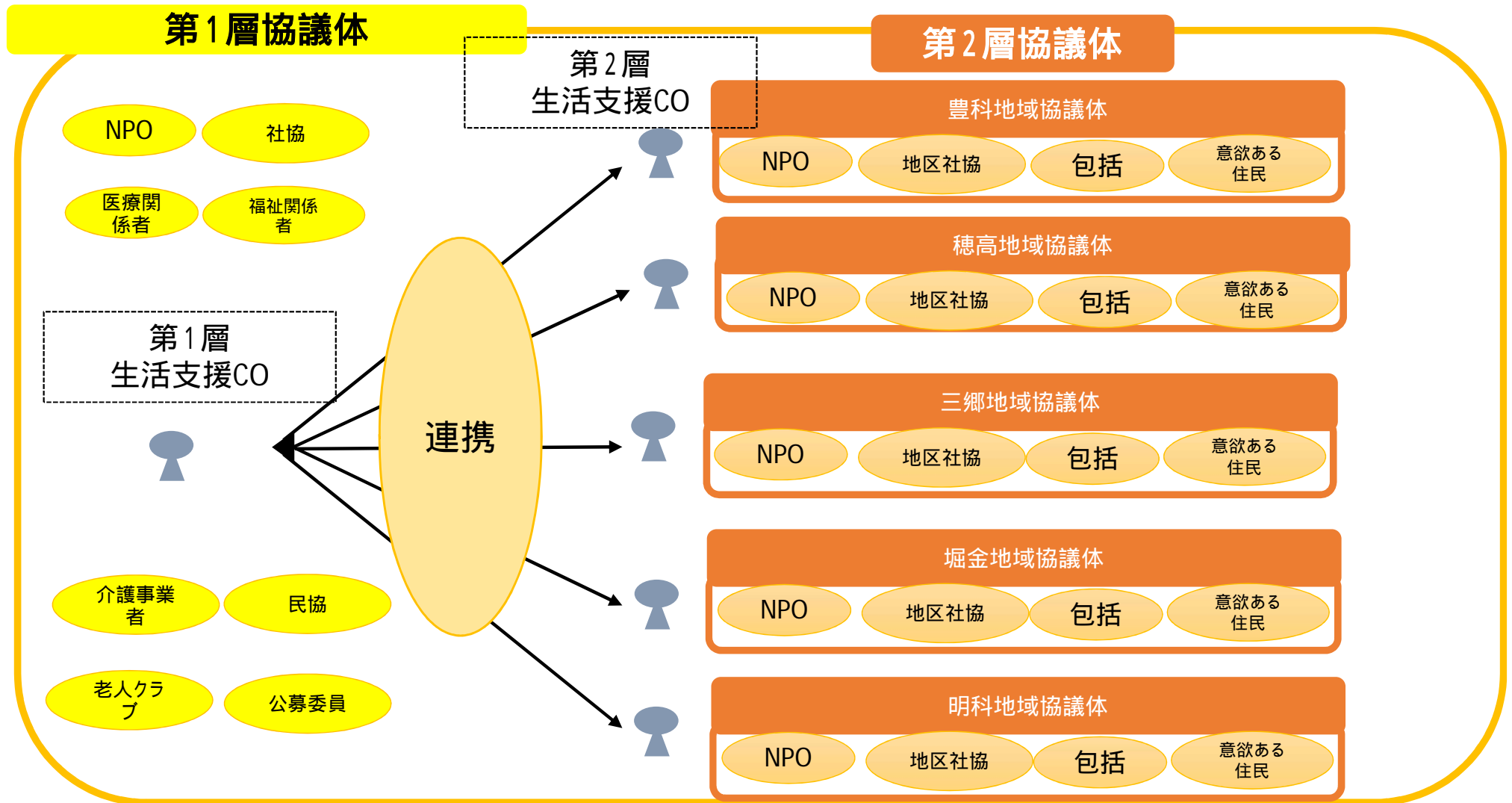
連携

H30年度の目標

地域福祉担当部門やまちづくり部門との連携も深め、地域のニーズに基づくサービスの創設及びそれを担う人の支援を進めます。

- 関連団体との情報共有・連携強化の場となる「協議体」活動を積み重ね、地域の中で認知されていく取組を進めます。

生活支援コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ



第2層協議体は、活動を重ね、地域の中での認知度を高めることにより、区長をはじめとした意欲ある住民の参加を促していきます。

協議体研修会を開催しました

平成29年7月9日(日)に協議体活動を推進するために、生活支援コーディネーターの活動報告と公益財団法人さわやか福祉財団高橋望氏を招いた講演会・ワークショップを内容とした「協議体研修会」を実施しました。

活動報告

市の取組状況、各地域の協議体活動を報告し、情報を共有しました。

基調講演・ワークショップ

「地域が輝く助け合い ～ 協議体の役割 ～」
公益財団法人さわやか福祉財団 高橋望氏

切り札は「ワークショップ」= 共感の拡大

「助け合い体験ゲーム」や「住んでいる地域で必要だと思える活動について」をテーマにワークショップを行い、地域に入っていくための手法を学びました。



協議体研修会

介護保険制度の改正により、地域において生活支援や介護予防を充実するために生活支援体制整備事業がはじまりました。安曇野市では、平成28年9月から高齢者が元気で過ごせる地域づくりを目指して、5地域ごとに協議体を設置し活動をしています。今回、協議体では地域の方と一緒に支え合い活動をするために、どんな取り組みができるかを考える研修会を開催いたします。

活動報告
安曇野市の生活支援体制整備事業の取り組み
各協議体の活動報告
報告者：各地域の生活支援コーディネーター

講演会・ワークショップ
第1部：「地域が輝く助け合い～協議体の役割～」
第2部：「これからの地域づくりを考えるワークショップ」
講師：さわやか福祉財団 新地域支援事業担当リーダー 高橋望氏

対象者：協議体委員
※要予約にて、定員満席となります

7月9日(日)
13:15～16:00
本庁舎4F大会議室

●お問い合わせ●
安曇野市介護保険課 71-2472



各地域の協議体活動の情報共有をするとともに、協議体活動が充実するよう、先進地の事例を交えた研修会を定期的を開催していきます。

地域支え合い推進フォーラムを開催しました

平成29年10月28日(土)に支え合いの地域づくりに向けて、公益財団法人さわやか福祉財団高橋望氏による基調講演、市内の4団体によるパネルディスカッションをプログラムとした「**安曇野市地域支え合い推進フォーラム**」を開催しました。

基調講演

「地域が輝く助け合い
～ つながり、いきいきと暮らせる安曇野市を目指して～」
公益財団法人さわやか福祉財団 高橋望氏

報告団体

地域の茶の間、みんなが笑顔になれる居場所「ほたる」
上押野区 大石昭明氏
地域の中でできること探し「ほっとひだまり」
NPO法人コミュニティーケアサポート 伊東勉氏
空き家を活用した地域の支え合い資源づくり
「縁側処だいたい」
NPO法人アルウィズ 小澤悠維氏
区・地区公民館と連携して進める健康体操
「野沢うきうき体操クラブ」
務台幸男氏、久保田正孝氏



安曇野市地域支え合い推進フォーラム
～支え合いの地域づくりに向けて～

少子高齢化が進む中、介護保険制度の増額により、支え合いの地域づくりが生活支援体制整備事業がはじまりました。市内では、地域住民が主体で活動している区民会や、地域住民と共にすすめるNPO法人の取組など、支え合いの活動が広がっています。自分たちが住んでいる地域でどんな活動が必要かを市内の活動事例を聞いて考えます。

プログラム

第1部:基調講演 13:20～14:30
「地域が輝く助け合い～つながり、いきいきと暮らせる安曇野市を目指して～」
講師 公益財団法人さわやか福祉財団 新地域実践事業部リーダー 高橋 望 氏

第2部:パネルディスカッション 14:40～16:00
「支え合いの地域づくりに向けて」
コーディネーター 渡邊 望 氏

1 地域の茶の間、みんなが笑顔になれる居場所「ほたる」 上押野区 大石 昭明 氏
2 地域の中でできること探し「ほっとひだまり」NPO法人コミュニティーケアサポート 伊東 勉 氏
3 空き家を活用した地域の支え合い資源づくり「縁側処だいたい」NPO法人アルウィズ 小澤 悠維 氏
4 区・地区公民館と連携して進める健康体操
「野沢うきうき体操クラブ」 務台 幸男 氏、久保田 正孝 氏

日時 平成29年10月28日(土)
13:15～16:00
場所 安曇野市役所本庁舎4階 大会議室
申し込み 不要 参加費 無料
問い合わせ先 71-2472 (介護保険課)

主催 安曇野市(介護保険課・市民生活部地域づくり課・福祉部長寿社会課)
共催 社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会、NPO法人あづみんらしの助け合いネットワークあづみん

当日は130名の市民の方々に来場いただき、自分たちの地域でどんな活動が必要かを、共に考えました。

市のホームページから当日の資料及び映像を見ることができます。(http://www.city.azumino.nagano.jp)

今後も、地域の支え合い活動等を紹介し、市民への支え合いや助け合いの意識を広げ、地域づくりをすすめるフォーラムを開催していきます。

生活支援サービスガイドブックを作成しました

介護保険外サービスの情報や、地域の支え合い・助け合いの情報がまとまっています。



生活支援サービス

買い物・配達・配食
通院・外出支援
家事支援・ゴミ出し
安否確認・見守り・声かけ
出前講座 など

地域にあるつながりや
本人の持つ力を大切に
します

通いの場

高齢者サロン
健康体操
ボランティア活動
趣味・生きがい活動
NPO・介護事業者の活動 など



延べ489件
の情報



安曇野市役所本庁舎・各支所及び各地域の生活支援コーディネーターの窓口で配布をしています。
また、市のホームページからもダウンロードできます。(http://www.city.azumino.nagano.jp)

サービスや活動の場を必要としている人へ情報をつなげるとともに、内容を充実させながら、掲載団体の周知広報による活性及び団体間の情報の共有を進めます。

支え合い事業施設整備等補助金

生活支援や介護予防を始めたい団体の備品購入等の立ち上げを支援します。

補助対象	下記の内容に補助していきます。 <ul style="list-style-type: none">・認知症カフェ(軽度認知障がい及び認知症の高齢者の皆さんが自ら活動し、楽しむことができる場)・高齢者サロン(地域住民のどなたでも気軽に集える場)・高齢者の見守り、配食サービスなど・健康体操教室 など
対象団体	住民組織(区及び隣組に相当する地縁団体組織等) ボランティア団体 NPO法人 社会福祉法人 介護事業者
対象経費	事業実施に必要な経費のうち、次に掲げるもの 備品購入費 工事請負費 なお、補助対象経費と同一の経費に対して、別の補助金や交付金等を重複して受けることはできません。
補助金額	1ヶ所あたり対象経費の2分の1以内、上限50万円
問い合わせ先	介護保険課介護保険担当(71-2472)

健康増進や介護予防のために健康づくりの活動を定期的に行う団体に活動費の一部を助成します。

補助対象	健康体操、軽体操、ウォーキング、ヨガ教室等で高齢者の運動機能の向上を目的としたもの。 囲碁、将棋、健康麻雀、歌、楽器、陶芸等趣味活動で市民の介護予防の促進を目的としたもの。
対象団体	次の条件を満たす団体に補助します。 ・代表者が市内に住所を有していること。 ・40歳以上の市民が8人以上含まれていること。ただし、会員のうち65歳以上の市民が5割以上含まれていること。 ・2ヶ月に1回以上の定期的活動実績があること。 ・市から当該団体に加入を希望している市民の受け入れ要請があったときは、原則として受け入れが可能であること。 市、社会福祉協議会等から別の補助金の交付を受けていないこと。
対象経費	講師謝礼 会場使用料
補助金額	活動が月2回以上の団体 の合計額の半額(年間上限12万円) 活動が月2回未満の団体 の合計額の半額(年間上限6万円)
問い合わせ先	長寿社会課長寿福祉係(71-2254)

認知症カフェ運営事業補助金

認知症カフェの開設を定期的に行っている団体に、**運営資金**の一部を助成します。

認知症カフェの定義	軽度認知障害及び認知症の高齢者等その家族等をはじめ、地域住民並びに専門職の誰もが気軽に集い、認知症状の悪化防止、相互交流及び情報交換を目的として、主体的に参加できる場をいう。
補助対象	下記の内容に補助していきます。 ・市内に住所を有する団体であること。 ・市民を主な利用対象者としていること。 ・認知症カフェを月に1回以上継続的に開設し、1回あたりの開設時間は、2時間以上であること。 市、社会福祉協議会等から補助金の交付を受けていないこと。
対象経費	人件費、報償費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、使用料及び賃借料、物品購入費
補助金額	1ヶ所あたり対象経費の2分の1以内、年間上限6万円
問い合わせ先	介護保険課介護予防担当(71 - 2474)

協議体活動報告

平成30年8月17日

豊科地域コーディネーター	三澤	早苗	(NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん)
穂高地域コーディネーター	片桐	大輔	(安曇野市社会福祉協議会)
三郷地域コーディネーター	中嶋	篤美	(安曇野市社会福祉協議会)
堀金地域コーディネーター	宮下	優奈	(安曇野市社会福祉協議会)
明科地域コーディネーター	小林	啓孝	(安曇野市社会福祉協議会)

豊科地域協議体

協議体の構成メンバー

シルバー人材センター 区長会 NPO法人からだ堂 豊科支部社協
コープながのくらしの助け合いの会 商工会豊科支部 NPO法人縁舎
NPO法人生活支援舎 民生児童委員協議会 ボランティア連絡協議会
老人クラブ連合会 中央包括支援センター 安曇野市社協豊科支所
NPO法人あんしん

14団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

協議体メンバーの情報交換 縦から横の繋がり(連携)へ
安曇野市の地域包括ケアシステム、老人福祉計画、第7期介護保険事業計画などについて学習
外出・移動手段について学習

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

課題(継続) 外出・移動手段について学習
元気な高齢者の社会参加・生きがいの場づくり（70歳代だからこそ出来る事）
地域ふれあい交流会実施

穂高地域協議体

協議体の構成メンバー

社会福祉法人 孝明 孝穂館	穂高支部 社会福祉協議会
公益社団法人 安曇野シルバー人材センター	穂高地区 民生児童委員協議会
NPO法人 なかむら 宅幼老所 なかむら	ボランティア連絡協議会 穂高支部
NPO法人 JAあづみくらしの助け合いネットワーク あんしん	安曇野市北部地域包括支援センター
医療法人 愛友会 居宅介護「アイ・ユーほたか」	介護老人福祉施設 有明苑
福祉ステーション ひまわり あづみの居宅介護	社会福祉協議会穂高支所
安曇野市 老人クラブ連合会 穂高支部	

13団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

- ・車両販売会社である「ダイハツ」による【健康安全運転講座】について、協議体を通じて参加者を募り、実施がされた。
- ・生活支援サービスガイドブックにより、実際に通いの場に参加したいという希望者のマッチングする実績が増えた。また、協議体の委員にケアマネジャーがいることで、利用者がそのような希望を持たれた際、お繋ぎする機会も増えた。
- ・穂高地域の各行政区（宮城地区社協・穂高団地を含む）の、高齢化率、介護保険認定率、区への加入率、社会資源の多寡、等について地図を作成し、見える化を行ってきた。また、「穂高地域」の高齢者の傾向も把握するため、民生児童委員の協力により、独居世帯約600世帯を対象にアンケートを実施し、調査報告を作成した。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

各地図や調査報告を用い、各区の分析作業を行っている。今後は分析作業が終わった時点で資料にまとめ、各区の主要な皆さんをお呼びして、フォーラムのような機会を持ちたいと考えている。その中で、分析したことはこうであるが、実際はどうなのか？を問い掛け、実際の状況を聞き取るために、その区へ生活支援COが赴いて、そこに住んでいる住民の皆さんと話し合わせてください、という発議の機会にもしたいと考えている。

三郷地域協議体

協議体の構成メンバー

安曇野シルバー人材センター

NPO法人コンプタ・キュリア デイサービス「太田屋」 居宅介護支援事業所「まがりっと」

NPO法人アルウィズ デイホーム「楓」 NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん

安曇野市老人クラブ連合会三郷支部 三郷支部社会福祉協議会

三郷地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会三郷支部

安曇野市南部地域包括支援センター 安曇野市社会福祉協議会 三郷支所

10団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

三郷地域では、サロンの中で参加したいが公民館まで歩けない。デマンドで買い物に行ってもお店の手前で下されてしまい、歩けない。また、ひとりでデマンドに乗ることができないなどの足の問題があった。そこで、住民同士の互助による移動支援の手法についての学習会や、デマンド交通あづみんの市担当課を招いてあづみん利用状況などについて学んだ。あづみん利用者の声や、不便な点ばかりに目が行ってしまっていたが、あづみんの運営にかかる費用や、運営側の改善努力を聞き、協議体ではあづみんに対する意識が変わった。あづみんは乗合タクシーのため、多少不便な所もある。すべてを網羅することはできないので、やはりお互い様の中で支え合うことが大切であることを勉強会の中で学ぶことができた。また、このような現状について、住民に理解を得られるようサロンなど機会があるごとに話をしている。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

現在、行政区ごとのマップを使って三郷地域の特性について分析作業を行っている。

同じ三郷地域でも都市部と山間部では困りごとが異なるため、同じ『足の問題』であってもどのようなことに困るのかなど具体的に知るための作業を行う。

堀金地域協議体

協議体の構成メンバー

有限会社宗明会見岳荘 公益社団法人安曇野シルバー人材センター堀金地域担当
NPO法人JAあづみくらし助け合いネットワークあんしん 安曇野市老人クラブ連合会堀金支部
堀金支部社会福祉協議会 安曇野市南部包括支援センター
堀金地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会堀金支部
堀金公民館 安曇野市身体障害者福祉協会堀金支部 配食ボランティアまめの会
社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会堀金支所

12団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

各地区にサロンがどのくらいあるのか調査を行った。その中で「趣味や体操、スポーツなどもサロン(集いの場)になるのではないか」との意見が協議体委員より寄せられ、お茶のみだけでなく、幅広く集いの場について調査を行った。また、把握した集いの場についてどこで開催されているのか、趣味・サロン・体操・スポーツで色分けをし、各地区のマップに落とし込む作業を行った。集いの場は公民館に集中していることがわかった。サロンに参加したくても公民館まで歩いていけない方が課題となっている。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

多くのサロンが公民館で行われているため、住民にもっと身近な場所でのサロン開催について調査を行う。
生活支援体制整備事業について地区に出向き、住民の方に広く周知を行う。

明科地域協議体

協議体の構成メンバー

特別養護老人ホーム孝明館 安曇野薬剤師会 安曇野シルバー人材センター
明科地区民生児童委員協議会 明科支部社会福祉協議会 安曇野市老人クラブ連合会明科
支部 安曇野市ボランティア連絡協議会明科支部 安曇野市中央地域包括支援センター
NPO法人あんしん 安曇野市社会福祉協議会明科支所

10団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

平成29年度の協議体研修会以降は、住民参加型ワークショップを明科地域でどのように実施するかについて協議した。その間、地域内先進区の取り組みを発表してもらったり、認知症カフェについて学んだりもした。平成30年度に入り、「ワークショップというと気楽に参加できない方もいるので、まずはサロンのスタイルで」という方向に固まった。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

協議体主催のサロンを11月より2ヶ月に1回、明科総合福祉センターあいりすにて実施する。タイトルは「あいりすdeサロン」（「de」には「行動する」という意味がある）。まずは気軽に集まっていたき、その中で本事業の趣旨の理解をすすめて、身近な地域での集まりや支え合いを広げていただけるよう啓発を行う。何度か行い参加者が集まるようになったら、本来の目的であるワークショップを行い、困り事の把握やその解決のための担い手の発掘などを行いたい。交通手段の問題であいりすに来られない方もいるため、将来的には地域の協力を得て公民館等で順繰りに開催できればと考えている。協議体では、サロンの開催を通じて地域課題の把握や担い手の発掘、ネットワーク作りなどを行っていききたい。